



さて どこへ行くのか
あなたの探している 何かに
気づくかもしれない——

自分を問うには 過去の自分に出会わざるをえない
洗い直しとでも言うのだろうか
これから先に残された時間はそう長いものではない
次に移るプロセスとして 内なる“旅”でみた 心の風景

Photograph リエクロダ

父(本名従孝・西蓮寺住職)は大正8年東洋大学社会事業科在学中に東京読売講堂で「創作童謡舞踊発表会」を開催。両親が大正12年関東大震災に遭遇して、小倉へ戻り、以後寺を拠点に「黒田児童芸術舞踊協会」を創設。昭和20年2月父没後、長女呆子が16歳で継承、以後独学。父娘2代にわたりここ北九州の地で、大正・昭和・平成の幾星霜を経る。時を翔け、虹を追い、弱さや脆さも合わせ持った等身大の呆子の、浮いては沈む「あさきゆめ」の数を追いながら、90年節目のチェンジギアとする。

- 1部 A 牧歌 追想曲
B にじいろの翼 バリアフリークラス
- 2部 裸木の目録 5場
- 1場 銀杏の樹 其の1 母の袂 其の2 初恋
2場 空白 其の1 真空地帯 其の2 荒野
3場 時の花びら 其の1 北九州 birth
其の2 ガラスのEden
4場 權こぎどんぶらこ 其の1 道しるべ 其の2 漂々
其の3 携帯症候群 其の4 牛の群れ
5場 流れ星ポエジー 其の1 いのち
其の2 oh good ふるさと
其の3 エンディング 銀のベル



撮影 テス大阪